

# 平成 26 年度 公益社団法人大気環境学会 事業報告

(平成 26 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日)

## 1. 会員の状況

種 別	平成 26 年 6 月 30 日	種 別	平成 27 年 6 月 30 日	差引増減 (Δ)
正 会 員	984 名	正 会 員	932 名	Δ 52 名
法人会員 A	153 名	法人会員 A	150 名	Δ3 名
法人会員 B	52 名	法人会員 B	50 名	Δ2 名
学生会員	59 名	学生会員	68 名	9 名
賛助会員	16 団体 (20 口)	賛助会員	16 団体 (20 口)	

正会員数は、平成 25 年度は 8 名の減少にとどまったが、平成 26 年度は 52 名の減少になった。

## 2. 年会報告

平成 26 年 9 月 17 日 (水) ～19 日 (金) に中国・四国支部の担当で、愛媛県松山市の愛媛大学城北キャンパスにおいて、第 55 回大気環境学会年会を開催した。参加者数は、正会員 310 名、賛助会員 16 名、法人会員 A 3 名、法人会員 B 30 名、学生会員 64 名、非会員 49 名、名誉会員 1 名、計 473 名であり、機器展出展／カタログ出展企業数は 25 社であった。

総会、受賞記念講演、特別講演、シンポジウム、特別集会、分科会、機器展が開催された。一般研究発表は、口頭発表 226 件、ポスター発表 122 件、あわせて 348 件であった。また、機器展出典企業による技術セミナーを開催した。

## 3. 総会開催

平成 26 年 9 月 18 日 (木) 愛媛大学城北キャンパスグリーンホールにて平成 26 年度総会を開催した。

### 審議及び報告事項

#### 1) 平成 25 年度事業報告、収支決算報告及び監査報告について

議長より質疑を求めた後、全員一致でこれを決議した。

#### 2) 平成 26 年度事業計画及び収支予算について

事業計画及び収支予算については、定款第 35 条により、事業年度開始前に理事会を開催し、すでに承認されているため、本総会では事後報告ということである。

#### 3) 大気環境学会役員を選任について

役員選挙結果の報告があり、以下の方が理事及び監事候補者として選出されたことが報告された。議長より質疑を求めた後、定款第 18 条第 3 項の規定に従い、候補者ごとに理事及び監事として選任する決議を行った。

選挙区	理事定数	氏名	所属
北海道・東北	2	村尾 直人	北海道大学

		渡邊 明	福島大学
関 東	9	伊豆田 猛	東京農工大学
		大河内 博	早稲田大学
		大原 利真	国立環境研究所
		内藤 季和	千葉県環境研究センター
		中井 里史	横浜国立大学
		新田 裕史	国立環境研究所
		長谷川 就一	埼玉県環境科学国際センター
		畠山 史郎	東京農工大学
		速水 洋	電力中央研究所
中 部	3	大泉 毅	アジア大気汚染研究センター
		早川 和一	金沢大学
		皆巳 幸也	石川県立大学
近 畿	3	近藤 明	大阪大学
		島 正之	兵庫医科大学
		平木 隆年	兵庫県環境研究センター
中国・四国	2	大原 真由美	元広島県立総合技術研究所保健環境センター
		若松 伸司	愛媛大学
九 州	2	岩本 真二	日本環境衛生センター
		鶴野 伊津志	九州大学

監事

選挙区	監事定数	氏名	所属
東日本	1	村野健太郎	法政大学
西日本	1	福崎紀夫	新潟工科大学

4) 第56回大気環境学会年会開催地について

第56回大気環境学会年会を東京都で開催し、会場を早稲田大学、年会長を早稲田大学教授の名古屋俊士会員としたい旨の提案があり、承認された。

5) 第57回大気環境学会年会開催地について

第 57 回大気環境学会年会を北海道で開催し、会場を北海道大学、年会長を北海道大学准教授の村尾 直人 会員とする計画が報告され、承認された。

6) その他

特に記載事項なし。

#### 4. 理事会等開催

##### (1) 理事会

1) 定例の会議を次のように開催した。

第 1 回：平成 26 年 8 月 29 日（日本公衆衛生協会会議室）

審議内容：事業報告・収支決算、各委員会報告、理事会・総会議題等

第 2 回：平成 26 年 9 月 16 日（愛媛大学城北キャンパス）

審議内容：学会誌掲載料の改定、今後の課題等

第 3 回：平成 26 年 9 月 18 日（愛媛大学城北キャンパス）

審議内容：大気環境学会役員の選出

第 4 回：平成 27 年 5 月 21 日（日本公衆衛生協会会議室）

審議内容：平成 27 年度事業計画及び収支予算、平成 26 年度事業計画修正案及び収支予算修正案、常任理事会規程の制定

2) 平成 25 年度事業報告及び収支決算の承認（第 1 回理事会）

それぞれ、原案の通り承認された。

3) 学会誌掲載料の改定（第 1 回、第 2 回理事会）

学会誌掲載料については、投稿数が多いほど赤字が増加する要因になっているため、掲載料の見直しを検討し、平成 27 年 4 月受付分から掲載料を改定することとした。投稿規程の改訂等の技術的な課題については、編集委員会で決定することとした。

4) 平成 27 年度事業計画及び収支予算の承認（第 4 回理事会）

定款に従い、平成 27 年度の事業計画及び収支予算案等の審議を行い、承認された。この結果を受け、平成 27 年 6 月 19 日に内閣府に事業計画書等を提出した。また、学会ホームページに掲載した。

5) 常任理事会規程の制定（第 4 回理事会）

当学会の運営については、ほとんど常任理事会が担当してきたが、定款に常任理事会の規程がなく、役割分担が明確でないことから、設置規程、職務及び権限等について理事会決定とする規程を制定した。

6) 平成 26 年度事業計画及び収支予算の修正（第 4 回理事会）

独立行政法人環境保全再生機構からの受託研究については、理事会の承認（平成 25 年度第 2 回、平成 26 年 5 月 23 日）を得ているが、内閣府からの指導により、変更届を提出することになった。変更の理由は、「本法人の実施する「大気環境に関する調査及び研究」について、活動内容を明確にするため、「公 1（公益目的事業）大気環境に関する普及啓発事業」の中に、「大気環境に関する調査及び研究」を明記して活動内容を明らかにするとともに、大気環境に関する学術的な調査及び研究の一層の進展を図る」とした。

平成 26 年度事業計画及び収支予算では、受託研究について記載していなかったため、事業計画及び収支予算の修正版を作成し、平成 27 年 5 月 15 日、内閣府に変更届を提出したことが報告された。

## (2) 常任理事会

1) 定例の会議を次のように開催した。

第 1 回：平成 26 年 7 月 30 日、第 2 回：平成 26 年 11 月 7 日、第 3 回：平成 26 年 12 月 19 日、第 4 回：平成 27 年 3 月 20 日。また、適宜メール審議により、必要事項を協議した。

2) 規程等の整備など

(ア) 投稿規程の改定について

掲載料改定の通知と学会誌コンテンツ充実化について、編集委員会から検討結果の報告があり、検討した結果、以下のような内容で、平成 27 年 1 月発行の第 50 巻第 1 号及び学会ホームページに掲載することとした。

- ① 平成 26 年度第 2 回理事会において決定した掲載料の改定を投稿規程に掲載する。
- ② 従来、和文原稿と英文原稿に価格差があった掲載料金は同一とする。
- ③ 第 50 巻第 1 号及び学会ホームページに、改定内容とともに、会員向けサービスの向上（コンテンツ充実）について、会長名で告知文を掲載する。

(イ) 倫理綱領の確認

「大気環境学会倫理綱領」について、平成 26 年 9 月 17 日の倫理委員会において、現在の倫理綱領の内容に特に変更が必要な箇所は無いことが確認されたことが報告された。理事会でメール審議を行った結果、字句修正の上、承認・確認された（平成 26 年 11 月 27 日）。

(ウ) 学会賞及び論文賞選考手続きの変更

従来、学会賞選考委員会の下に論文賞選考小委員会をおいていたが、これを独立し、「論文賞選考委員会」を設置し、論文賞以外の選考を「学会賞選考委員会」で行なうこととした。各委員会の選考結果を常任理事会に報告し、決定することとした。この改定内容に合わせて、大気環境学会の表彰に関する規定を改定した（平成 27 年 3 月 20 日）。

(工) 外部受託研究に関する内規の制定（平成 26 年 7 月 30 日）

(才) AJAE 委員会の任期に関する内規の制定（平成 26 年 11 月 7 日）

(力) 各種委員会等に関する規定の制定（平成 27 年 3 月 20 日）

(キ) 分科会に関する内規の改定（平成 27 年 3 月 20 日）

3) 内閣府への変更届提出

(1)理事会 4)で述べたように、独立行政法人環境保全再生機構からの受託研究について、内閣府からの指導があり、事業計画及び収支予算の修正版を作成し、平成 27 年 5 月 15 日、内閣府に変更の届出を行なった。

4) 環境保全再生機構からの受託研究の実施

学会活動の活性化と外部資金による学会財務改善の試みとして、平成 26 年度から、独立行政法人環境保全再生機構からの受託研究「道路沿道環境における微小粒子状物質（PM<sub>2.5</sub>）及びナノ粒子に及ぼす要因に関する調査研究」（平成 26～28 年度）を「沿道 PM<sub>2.5</sub>・ナノ粒子研究会」が実施している。

5) 日中学術交流について

日中学術交流に関する覚書（案）について検討し、了承された。また、日中記念合同シンポジウムを第 56 回年会において開催すること等が了承された。さらに、この交流に関する日本側担当として慶應大学の奥田会員に依頼することとした。

#### 6) 学会賞受賞候補者の募集について

平成 27 年 5 月 27 日を締め切りとして、平成 27 年度の大気環境学会賞の公募を行なった。申し込みがなかったため、6 月 30 日まで延長した。

#### 7) 分科会の募集について

平成 27 年 5 月 31 日を締め切りとして、平成 27 年度の大気環境学会分科会の公募を行なった。（公社）大気環境学会分科会に関する内規により、活動期間は 2 年間とされているが、学会役員の任期との同期を図るため、今回の公募に限り 3 年間とした。公募の結果、10 分科会の申請があった。

#### 8) 保健文化賞応募

昨年度に引き続き、第一生命保険株式会社が主催する第 67 回保健文化賞に応募することとした。保健文化賞は、「保健衛生（関連する福祉等を含む）の向上に著しく寄与する研究または発見をした団体あるいは個人」を対象とする賞であり、当学会は昭和 48 年度に社団法人大気汚染研究全国協議会時代に受賞歴がある。

#### 9) 環境省との意見交換会

昨年度に引き続き、環境省水・大気環境局との意見交換会（平成 26 年 12 月 19 日）を行った。

#### (3) 支部長会

平成 26 年 9 月 16 日、愛媛大学城北キャンパス校友会館にて開催し、各支部の報告が行われた。

## 5. 出版等

- (1) 大気環境学会誌：第 49 巻 5 号～第 50 巻 4 号の計 6 号を刊行した。
- (2) 第 55 回大気環境学会年会講演要旨集 B5 版にて刊行した（年会事務局）。
- (3) 日韓大気環境学会合同英文誌 AJAE (Asian Journal of Atmospheric Environment) Vol.8 No.3、No.4、Vol.9 No.1、No.2 が刊行された。

## 6. 委員会開催

### (1) 倫理委員会

第 55 回年会開催期間中の平成 26 年 9 月 17 日に倫理委員会を開催し、平成 25 年度活動報告や今後の課題について審議した。編集委員会で検討中の論文作成に関する諸課題のうち、利益相反や倫理委員会の役割などについて継続的に検討した。「大気環境学会倫理綱領」について、特に改訂する必要がないことを確認し、常任理事会に報告した。また、委員の交代を行い、4 名の新委員が選任された。

### (2) 編集委員会（編集実務委員会）

#### 1) 定例の会議の開催

定例の会議を開催し、学会誌の編集企画を行い、合計 6 号（第 49 巻第 4 号～第 50 巻第 3 号）を刊行した。また、適宜メール審議により、必要事項を協議した。

第1回：平成26年7月18日、第2回：平成26年9月19日（平成26年度編集委員会を兼ねる。）、第3回：平成26年11月17日、第4回：平成27年1月21日、第5回：平成27年3月27日、第6回：平成27年5月27日

## 2) 論文審査

平成26年度の一般論文の投稿数は27編、学生・若手論文11編であり、例年と同様であった。判定結果は、採用13編で、採択率は59%であった。

3) 入門講座として、「同位体環境学」（第2講：第49巻第4号、第3講：第49巻第5号）、解説として、環境大気モニタリング分科会による「環境大気常時監視」のシリーズの連載を第49巻6号から開始した。また、研究室紹介を毎号掲載した。

## 4) 投稿規程の改訂

掲載料改定を受けて、投稿規程・投稿の手引を改訂し、第50巻1号に掲載した。

## 5) J-stage アクセスランキング

J-stage データを解析し、ホームページ上に J-stage アクセスランキングをアップした。

### (3) 国際交流委員会

1) 第55回年会開催期間中の平成26年9月17日に、国際交流委員会を開催した。日韓学術交流セミナー覚書、日韓国際交流シンポジウムの開催、韓国大気環境学会30周年記念集会への日本からの派遣、AJAEの活動と課題、今後の国際交流等について審議した。

2) 平成26年12月26日に中国環境科学院を早川副会長が訪問し、環境科学会大気環境分科会柴理事長と日中学術交流について協議し、平成27年度中に覚書を交わし第56回年会で日中交流記念シンポジウムを開催することの基本合意に達した。

### (4) 学会賞選考委員会

平成27年5月27日を締め切りとして、平成27年度の大気環境学会賞の公募を行なったが、申請がなかったため、6月30日まで募集期間を延長した。その結果、3件の申請があり、平成27年7月3日、大気環境学会賞の各賞の選考を行なった。この結果は、常任理事会に報告し、9月16日の総会で表彰する予定である。

### (5) 論文賞選考委員会

1) 論文賞の選考対象論文

2) 大気環境学会誌第49巻およびAJAE第8巻に掲載された論文とした（全32編）。編集委員による推薦（一次評価）と論文賞選考委員会における選考（二次評価）の二段階選考とした。

3) 第1回論文賞選考委員会（平成27年5月8日）、第2回論文賞選考委員会（平成27年6月2日）を開催し、大気環境学会誌第49巻及びAJAE第8巻に掲載の論文について大気環境学会論文賞の選考を行い、最優秀論文賞1編、論文賞5編（ノート・速報部門1編、技術調査部門1編、学生・若手部門2編、AJAE部門1編）を論文賞候補として、常任理事会に推薦した。

### (6) 広報委員会

1) 活動状況

① 学会広報体制の充実

平成26年度においても引き続き、見やすく使いやすい学会ホームページにすることを優先課題として、学会事務局と共に作業を進め、学会ホームページのトップページや内容などを充実させた。

② ポスター「大気環境学会のご案内」の更新

学会誌第50巻の表紙に合わせて、大気環境学会ポスターを更新した。

③ 第28回環境工学連合講演会（日本学術会議主催）への参画

例年通り、日本学術会議主催の講演会において、学会を代表して井川学会員が講演した。

- ・ 平成27年5月15日（金）（日本学術会議講堂）
- ・ 総合テーマ「Future earth：工学が果たす役割について」
- ・ 井川学会員の講演「持続可能な未来のため大気環境科学-霧と露の化学研究から展望-」

2) 委員会開催

第55回年会開催期間中の平成26年9月17日に、広報委員会を開催した。また、電子メール等も利用して会議を行った。ホームページの委託先と学会事務局との打ち合せも、電子メールを介して行った。

**(7) 選挙管理委員会**

平成26年度役員（理事・監事）選挙を行った（平成26年6月20日告示、7月10日までに投票）。開票結果の確定を平成26年7月25日に行い、理事及び監事候補の選出結果を、平成26年8月29日の理事会及び平成26年9月18日の総会において報告した。

**(8) 企画運営委員会・産官学民連絡協議会**

第56回大気環境学会年会および産官学民連絡協議会と合同で、年会開催期間（9月15日から17日まで）に賛助会員各位における環境へのユニークな取り組み紹介、第56回大気環境学会年会におけるセミナー開催を企画した。

**(9) AJAE 委員会**

第55回年会開催期間中の平成26年9月17日にAJAE委員会を開催した。また、適宜メール審議により、必要事項を協議した。韓国大気環境学会と協力して、AJAE (Asian Journal of Atmospheric Environment) Vol.8 No.3、No.4、Vol.9 No.1、No.2 を発行した。「大気環境学会 AJAE 委員会の任期に関する内規」を作成し、常任理事会に報告した。

**7. 支部報告**

**(1) 北海道・東北支部**

1) 支部総会、支部学会等の開催

平成26年11月14日（宮城県仙台市東京エレクトロンホール宮城）、支部総会、支部学会、幹事会を併催。

- ・ 支部総会：平成25年度支部活動報告、決算報告、平成26年度支部活動方針、予算案を諮り、承認を得た。
- ・ 支部学会：総会と同会場にて開催した。一般研究19題の発表があった。

2) 幹事会：総会に併せて支部幹事会を開催した。平成25年度支部活動報告及び決算報告、平成26年度支部

活動方針及び予算案、支部規約改定について審議、承認した。次期開催県については福島県を候補とし、あわせて総会に諮ることとした。また、本支部が担当する今後の大気環境学会の開催について意見交換し

た。

## (2) 関東支部

### 1) 支部総会、講演会等の開催

平成 27 年 6 月 12 日 (金) (ムーブ町屋ムーブホール)

- ・ 支部総会：平成 26 年度支部・部会活動報告、平成 26 年度中間会計報告、監査報告、平成 27 年度予算、平成 27 年度活動計画、参加者 191 名 (委任状 149 名)

- ・ 関東支部講演会の開催 (全国環境研協議会と共催)

テーマ：「PM<sub>2.5</sub>問題の対策と今後の課題」、4講演

- ① アジアから輸送されるエアロゾルとその影響 – 科研費新学術領域研究の成果を中心に –、畠山史郎 (東京農工大学)
- ② 微小粒子状物質対策への取組、是澤裕二 (環境省水・大気環境局)
- ③ 注意喚起の現場からみた現状や課題、内藤季和 (千葉県環境研究センター)
- ④ PM<sub>2.5</sub> 問題の3 年間を振り返る、大原利真 (国立環境研究所フェロー)

2) 支部役員会：第 1 回 (平成 26 年 11 月 12 日)、第 2 回 (平成 27 年 1 月 21 日)、第 3 回 (平成 27 年 3 月 31 日)、第 4 回 (平成 27 年 5 月 27 日)

### 3) 部会活動報告

健康影響、酸性雨、室内環境、予測計画評価、植物影響、化学反応、粒子状物質及び大気質調査の各部会で、講演会等を開催した。

## (3) 中部支部

### 1) 総会・評議員会、公開シンポジウムの開催

平成 27 年 1 月 31 日 (土) (新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」)

- ・ 支部総会：平成 25 年度の事業報告・決算報告・会計監査報告、平成 26 年度事業経過報告等
- ・ 公開シンポジウム「日本海及び北東アジア域における越境大気汚染の現況」：一般発表 5 件、参加者 44 名

### 2) 支部ホームページの運用を開始

### 3) 日本エアロゾル学会 都市大気の PM<sub>2.5</sub> 研究会 講演会・勉強会を共催

平成 27 年 2 月 26 日 (木) ~27 日 (金) (エクシブ鳥羽)、

- ・ 主催：日本エアロゾル学会 都市大気の PM<sub>2.5</sub> 研究会
- ・ 講演会：「全環研酸性雨データの活用例と排出インベントリを活用した大気質予測について」、特別講演 1 件、一般講演 3 件、参加者 26 名
- ・ 勉強会：「酸性雨及び PM<sub>2.5</sub> に関する統計解析の概論及び実践」、発表 3 件、参加者 30 名

## (4) 近畿支部

### 1) 支部総会・シンポジウム、運営幹事会の開催

平成 26 年 7 月 18 日 (金) (大阪府環境情報プラザ)

- ・ 支部総会：平成 25 年度事業報告・収支決算報告、部会報告、平成 26 年度事業計画・予算案



- ・ シンポジウム、参加者 29 名
  - ① 化学物質管理を支えるリスク評価・管理手法の現状と課題、東海明宏（大阪大学大学院工学研究科）
  - ② 化学物質の健康影響、東賢一（近畿大学医学部）
- ・ 理事会・運営幹事会：第 1 回（平成 26 年 7 月 18 日(金)）、第 2 回（平成 27 年 2 月 4 日(水)）

2) 学術委員会発表会：平成 26 年 12 月 26 日(金)、一般発表 15 題、特別講演 1 題、参加者 34 名

### 3) 部会活動報告

エアロゾル部会、人体影響部会、気象拡散部会、反応と測定部会の各部会で、講演会等を開催した。

## (5) 中国・四国支部

### 1) 支部総会、講演会、幹事会等の開催

平成 27 年 1 月 24 日（土）（山口県環境保健センター）

・拡大総会：平成 25 年度会計報告、3 学会合同講演会の準備

・公開講演会：一般発表 16 件

### 2) 大気、水、廃棄物、3 学会中国四国支部合同講演会

平成 27 年 5 月 15 日（金）（岡山シティホテル）

テーマ「気候変動による影響と評価」

- ① 日本における気候変動による影響と適応の取組、藤井崇史（環境省地球環境局）
- ② 吉井川流域における洪水比流量の将来変化予測、近森秀高（岡山大学）
- ③ 2014 年 8 月広島土砂災害の特徴と今後の土砂災害対策、（広島大学）

## (6) 九州支部

### 1) 支部総会、役員会の開催：平成 27 年 1 月 23 日（金）（九州大学応用力学研究所）

・ 支部総会・役員会：平成 25 年度事業実績報告及び収支決算、平成 26 年度事業計画及び予算について

### 2) 研究発表会の開催：平成 27 年 1 月 23 日（金）（九州大学応用力学研究所）、特別講演 1 件、一般講演 13 件、参加者 68 名

・ 特別講演：「東アジア広域大気汚染の観測とモデリング：実態把握と改善へ向けて」、金谷有剛（海洋開発研究機構）

## 8. 分科会等報告

### (1) 植物分科会

#### 1) 年会分科会：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）

テーマ：「大気環境と植物 大気汚染、地球環境、そして植物を取り巻く地域の複合環境」、講演 1 件

#### 2) 講演会（関東支部植物影響部会との共催）

平成 26 年 12 月 12 日（金）、電力中央研究所大手町本部、第一会議室

- ① 高 CO<sub>2</sub> 濃度が植物の光利用特性に及ぼす影響、富松 元（国立環境研究所）
- ② 富士山北麓針葉樹林からの揮発性有機化合物の放出とそれらを起源とする二次有機エアロゾル生成に寄与する環境要因の解明、望月智貴（北海道大学低温科学研究所）

### 3) 世話人会議

- ・ 世話人会議：平成 26 年 9 月 5 日、平成 25 年 12 月 12 日、平成 27 年 4 月 30 日
- ・ 世話人選挙：平成 27 年 5 月に世話人選挙を実施した。

#### (2) 都市大気環境モデリング分科会

1) 年会分科会：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）

テーマ「光化学オゾン等生成反応レジーム推定研究の最前線」、講演 4 件、参加者 47 名

#### (3) 酸性雨分科会

1) 年会分科会：平成26年9月17日（第55回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）

テーマ：「観測データ及び数値計算からみる大気沈着の長期変動」、講演3件、参加者52名

2) 東京講演会：平成27年2月25日（法政大学小金井キャンパス）

テーマ：「地方自治体における酸性雨、エアロゾル研究と若き研究者の育成」、若手研究者講演5件、一般講演1件、招待講演3件、参加者33名

##### ・ 招待講演

- ① 「酸性雨、環境研究に携わって」、友部 正志（元・茨城県霞ヶ浦環境科学センター）
- ② 「全国の酸性雨（湿性沈着）分布－全国環境研協議会酸性雨全国調査結果」、  
岩崎 綾（沖縄県衛生環境研究所）・村野 健太郎（法政大学 生命科学部）
- ③ 「全国の酸性雨（乾性沈着）分布－全国環境研協議会酸性雨全国調査結果」  
松本 利恵（埼玉県環境科学国際センター）

3) 大阪講演会：平成27年2月26日（エキシブ鳥羽）

テーマ：「全環研酸性雨データの活用例と排出インベントリを活用した大気質予測について」、一般講演3件、特別講演1件、参加者約30名

##### ・ 特別講演

- ① 「排出インベントリの概要及び化学輸送モデルへの活用について」、山地 一代（神戸大学海事科学研究科）

4) メールニュースの発行（13回発行、メール会員186人）

#### (4) 環境大気モニタリング分科会

1) 年会分科会（第 35 回研究会）：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）、自動車環境分科会と合同で開催、参加者 41 名

テーマ「自動車排出ガス中の微小粒子及び反応性成分の計測と環境大気モニタリング」、講演 4 件

2) 第 36 回研究会：平成 27 年 3 月 13 日（江東区文化センター）、参加者 44 名

テーマ名「東アジアにおける大気汚染物質のモニタリングと移流」

- ① 大気汚染物質モニタリングの近年の動向について、井土八造（環境省）
- ② 日中韓同時観測から見た中国大都市の PM<sub>2.5</sub> の特徴と関東地域への影響、米持真一（埼玉県環境科学国際センター）
- ③ 九州における大陸からの大気汚染物質移流の影響について、山本重一（福岡県保健環境研究所）

④ 東アジアにおける大気汚染物質のライダー観測について、杉本伸夫（国立環境研究所）

3) 幹事会：平成 26 年 12 月 5 日：第 36 回研究会テーマと演者、大気環境学会入門講座「環境大気常時監視」への寄稿について検討

4) 大気環境学会誌解説の寄稿

分科会として大気環境学会誌に解説として「環境大気常時監視」のシリーズを寄稿した。

① 光化学オキシダント測定法の検討経過、泉川碩雄

② 窒素酸化物濃度測定法の検討経過、平野耕一郎

③ 二酸化硫黄濃度測定法の検討経過、吉成晴彦

④ 浮遊粒子状物質測定法の推移、朝来野国彦

#### **(5) 健康影響分科会**

1) 年会分科会：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）

「越境大気汚染の健康影響評価とその課題」、講演 3 件、参加者 40 名

2) 日本衛生学会の連携研究会「大気環境と健康に関する研究会」が企画したシンポジウム「粒子状物質の健康影響とその評価に関わる課題」を後援、平成 27 年 3 月 28 日（土）、参加者約 40 名

3) 第 56 回年会分科会「粒子成分の健康影響評価とその課題」の企画

#### **(6) 自動車環境分科会**

1) 年会分科会（第 35 回研究会）：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）、環境大気モニタリング分科会と合同で開催、参加者 41 名

テーマ「自動車排出ガス中の微小粒子及び反応性成分の計測と環境大気モニタリング」、講演 4 件

#### **(7) 室内環境分科会**

1) 年会分科会：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）

テーマ「室内外の粒子状物質及びガス状物質の最新知見 -新たな室内空気質対策に向けて-」、講演 2 件

2) 幹事会合を2回開催した。

#### **(8) 放射性物質動態分科会**

1) 年会分科会：平成26年9月17日（第55回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）、全国環境研協議会と共同で主催

テーマ「放射性物質の環境動態と自治体での取り組み」、講演5件、参加者50名

2) 国際ワークショップを後援：平成27年3月2～3日（福島大学）

テーマ「International Workshop on Dispersion and Deposition Modeling for Nuclear Accident Releases-Transfer of science from academic to operational models-」、講演8件、ポスター発表27件、参加者73名

#### **(9) 臭気分科会**

1) 年会分科会：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）

テーマ「愛媛における臭気問題－現状と取り組み－」、講演 3 件、参加者 12 名

#### **(10) 都市大気エアロゾル分科会**

1) 年会分科会：平成 26 年 9 月 17 日（第 55 回大気環境学会年会、愛媛大学城北キャンパス）

テーマ「有機マーカーに着目した PM の起源解析」、講演 3 件、参加者 71 名

2) 学術講演会・勉強会（日本エアロゾル学会（都市大気の PM<sub>2.5</sub> 研究会）主催、大気環境学会中部支部・酸性雨分科会との共催）、平成 27 年 2 月 26、27 日（エクシブ鳥羽）

テーマ「全環研酸性雨データの活用例と排出インベントリを活用した大気質予測について（講演会）」、講演 7 件、参加者 30 名

テーマ「酸性雨及び PM<sub>2.5</sub> に関する統計解析の概論及び実践（勉強会）」、参加者 26 名

### **（1 1）沿道 PM<sub>2.5</sub>・ナノ粒子研究会**

(独)環境再生保全機構からの受託業務として、「道路沿道環境における微小粒子状物質 (PM<sub>2.5</sub>) 及びナノ粒子に及ぼす要因に関する調査研究」(平成 26 年度～28 年度)を開始した。平成 26 年度の研究結果の概要は、以下の通り。

#### 1) 研究内容

##### ① 道路沿道における PM<sub>2.5</sub> 等に及ぼす要因解析

川崎市川崎臨港警察署前交差点を中心に通年観測と冬季集中観測を行った。

##### ② 自動車からの PM<sub>2.5</sub> 排出量推計

ガソリン車からの PM 排出量を推計するため、国内外における PM 排出係数を調査、収集した。

2) 環境改善調査研究成果発表会において概要を発表：平成 27 年 3 月 11 日

3) 委員会等を 5 回開催した。

平成26年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。

平成27年9月

公益社団法人 大気環境学会